

第7回 仙台市総合計画審議会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年11月24日（水） 18：30～20：30
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立委員、石川委員、内田委員、江成委員、大草委員、大村委員、岡本委員、小野田委員、佐竹委員、鈴木由美委員、西大立目委員、庭野委員、針生委員、増田委員、間庭委員、水野委員、柳生委員、柳井委員〔18名〕
欠席委員	阿部一彦委員、阿部初子委員、大滝委員、菊地委員、小松委員、菅井委員、鈴木勇治委員、高野委員、永井委員、西澤委員、樋口委員、宮原委員〔12名〕
仙 台 市	企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹(2)、青葉区役所区民部長、宮城野区役所区民部参事、若林区役所副区长、太白区役所区民部長、泉区役所区民部長
次 第	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正概要（案）

会議の概要

議事

(1) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の修正の方向について

・事務局から資料1を基に説明し、その後意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・11ページの重点的な取り組みに「環境と調和」との記述があり、3ページの都市像に対応していると思われるが、ここでは「自然と調和」との記述である。26ページの分野別計画は「自然と調和」となっているが、これらは意識的に変えているのか。
自然は森林や河川など、環境は都市部での生活環境を意識したものである。
- ・「環境と調和」だと漠然とし過ぎるので、「自然と調和」で統一してはどうか。
策定中の環境基本計画との整合性も含め検討したい。
- ・15ページの4(1)の記述は最後まで読まないと言っている文章だと分からない。直してはどうか。
- ・9ページから始まる「(2)子育て応援社会づくり」は から まで、保育サービスを増やす記述ばかりとなっている。保育サービスの充実自体は良いことだが、一面的過ぎる

のではない。子育てする時間を確保できるような働き方や雇用条件、雇用側の意識醸成といった視点も必要不可欠ではないだろうか。事業者への啓蒙などの視点もあると良い。また、同 から学童保育についての記述がなくなっているが、どのような意図なのか。

前段の両立支援については重要なことなので、庁内でも検討したい。後段については、8 ページの の記述と整理したところである。

- ・ 9 ページ(2) は学びに関連するので、重点政策 1 に位置づけてはどうか。
その点も含めて検討したい。
- ・ 子育ての分野においては児童虐待への対応が重要。被害に遭った子供を積極的に救済するといったことを盛り込んでもらいたい。
分野別計画では幅広に拾い上げる方向であるが、指摘のあった点を始め、重点政策にどこまで書き込むかは検討したい。
- ・ 21 ページの財政運営に関しては、区民意見交換会でも財源をいかにするかとの意見が多く、市民の不安を裏付けていると感じていた。その意味では、不安を解消・払拭するための財政状況についての情報提供と説明責任に関する記述が欠けているのではない。他都市では丁寧に取り組んでいるところもあるので、明文化を。
17 ページにあるとおり、市民力の発揮の前提として情報提供の重要性については記述しているところ。財政状況も含め分かりやすい情報提供と説明をしていきたい。
- ・ 32 ページにある「2 総合計画の実効性を確保する仕組み」として、事業評価をどのようなものにするのか。市民意識調査を毎年行うとあるが、その規模、手法や経費などについてどう考えているのか。
市民意識調査はこれまでも実施してきた。地域別、年齢別などで科学的に評価し得る母数とし毎年チェックできる仕組みにしたい。なお、成果指標は一面的なので、定性的な部分についてはアンケートで補完するなど総合的に評価していく。その結果を基に市民協働で実行していきたい。
- ・ 実施計画の期間どおり 3 年ごとに評価をし、さらに毎年の評価もやるということか。
事業によっては成果がすぐに出るものとそうでないものもあるので、3 年ごとの評価と毎年の評価とで仕上がりが全く別なものになることも懸念される。いかがか。
評価の具体的な仕組みについては、なお検討していきたい。
- ・ アンケートは作業が膨大な割に効果がよく分からないということもある。大切なことをしっかりつかめるよう工夫してもらいたい。
行政評価については事務量が膨大な割に実効性に疑問がありとりやめた経緯があるので、その点も踏まえて仕組みを検討したい。
- ・ 「市民協働による評価・点検」とあるが、これと市民意識調査の違いは何か。また、どのような形で結果を示すのか。
まだ庁内で議論している段階だが、成果指標や市民意識調査などのデータをそろえたうえで、市民協働手法を取り入れた評価を行い、その結果を公表するというもので、公表にあたってはマスコミ、ホームページ、市政だより等を通じて行うことを想定している。
- ・ 指標をつくって 3 年ごとに評価したうえで見直すとか、外部評価を取り入れるとか、作

業量が膨大になろうとも振り返りの作業は大切なのでがんばってもらいたい。

- ・20ページに、小学校区ごとに地域情報ファイルをつくとあるが、単にデータを集めるのでは意味がないのではないかと。成果指標として使うなどと銘打つべきではないか。地域のまちづくりにおいて、基礎的な情報自体が不足しているという問題意識があったため、すでに取り組んでいるもの。これを通して地域の方と課題認識を共有しまちづくりを進めていきたいと考えている。
- ・年に1回大量にPDFの資料が示されても余り意味がないので、せっかく収集するのならそれをどう使うか検討してもらいたいということである。
- ・データは、それを使う立場である市民の側で考えれば良く、細かく特定する必要はないのではないかと。
- ・単にPDFファイルで公表するのではなく、例えば人口であれば将来を見通せるようなデータとし、高齢化施策の推進などとリンクすることが重要ではないかと。
- ・統計局のようにGISで統計情報を見ることが可能であれば良いのかもしれない。GISなどが可能かどうかは確答できない。地域に正しい情報を伝え、いかに意見交換などに役立てられるかにかかっていると考えている。
- ・同じ20ページ(2)に「地域連携を担当する職員を配置」とあるが、地域で活動していて困るのは脈絡のない人事制度である。顔なじみになった頃に異動するというのは無駄が多いと感じる。難しいとは思われるが、人事政策との連動も考えてもらいたい。また、専門性のある民間人の登用も検討してもらいたい。
- ・先程の情報の提供に関連して、行政が一方的に流すのではなく、NPOなどが分析等したものを集め、皆が見ることができるといったようなことを、市民力をうまく使いながら行う仕組みも検討してはどうか。
- ・11ページから12ページに「地域再生に向けた取り組み」とあるが、このことは今後重要な課題になる。都市軸から離れ高齢化が進む郊外住宅地などについて、斬新なまちづくりの取組を盛り込めないか。
20ページ(2)にその点の課題認識は掲げている。基本計画での記述はこのレベルとしているが、具体的な施策については庁内での検討を深めたい。
- ・同じ20ページに「区役所と市民センターが一体となった地域支援体制」を構築するとの記述があるが、市民センターは市民力を育てるための学びの拠点であるべきで、区役所の下部組織にしてもらいたくない。
- ・3ページの都市像「潤いの都」については、文化としての杜の都の風土の継承ということを書き込んでもらいたい。杜の都という概念・理念を掘り下げ実現していけば、世界性を持ちうるのではないかと。
- ・また、都市像「活力の都」については、東北を応援するニュアンスが余りない。一次産業を念頭に、仙台が、状況が大変になっていく町や村をどう手助けしていくのか盛り込んでもらいたい。
- ・11ページに市街地ゾーンについての記述があるが、都心機能を拡充するといったことだけでなく、都心こそ城下町としての歴史性があることを強調してもらいたい。ヨーロッパであれば、歴史の残る旧市街地は大変大事にされていて、単純な開発はできない。そ

のような視点を盛り込んでもらいたい。

ご意見として受け止めさせていただく。市民センターが地域の学びの拠点であるということには変わりはない。地域を担う組織機能として一体的な形で運営していくことを意図している。

- ・ 1 ページに、「量」から「質」へ社会の志向が転換しているとの記述があるが、前回の審議会でその時代を更に超えているのではないかと指摘があったはずである。このままの表現としたいということか。
- ・ 1 ページに「社会経済構造全体が急激な変革」、4 ページに「社会経済全体の変革」、5 ページに「社会経済全体の構造変革」、11 ページに「社会経済システム」という記述がそれぞれあるが、意図的に書き分けているのか。そうでないなら統一してはどうか。
- ・ 4 ページの 2 (2) に「地域の声を積極的に発信していく役割が期待される」との記述があるが、市が地域の声をきちんと受け止めて反映させていくのではないのか。
- ・ に「凶悪化、巧妙化する犯罪」との記述がある。データ上は、凶悪犯罪は減っているのではないのか。
- ・ 8 ページに「健やかな体を育む学校教育」との記述があるが、「心」も入れてもらいたい。
- ・ 16 ページの (4) に関連して、東西線に期待するのは十分理解しているが、都市軸は東西線と南北線からなるので、南北線の広域拠点についての記述も加えてもらいたい。
表現については、指摘を踏まえて精査を図りたい。量から質の点については、本計画期間中にまさに本格的に移行するものと認識しており、これを前提としたい。また、広域拠点の重要性は否定するものではないが、東西の都市軸は産業の観点からユニークな地域を結んでいるので、産業活性化につなげたいという意図での記述となっている。
- ・ 31 ページ泉区の将来ビジョンに、「高齢者がいきいきと暮らし」とあるが、高齢化が最も進むと予測されているはずで、介護施設の不足が深刻なものになるだろう。いきいきと暮らせない高齢者も増えるのに、このような書き方でよいのか。
泉区は人口減少が訪れるのも高齢化が進むのも比較的早いことは承知している。一方で、意見交換会などではマイナス面を強調し過ぎないようにしてほしいという意見も多かった。全市的な高齢者施策は分野別計画にて対応している。ここでは元気な高齢者が元気でない高齢者に手を差し伸べる相互介護も一つの市民力の発揮ということで記述したもの。
- ・ いずれにしても弱者に対する配慮はどこかに盛り込む必要があるだろう。
- ・ 2 ページの「支え合う健やかな共生の都」をはじめ、全体でこのことに関連する記述の中に「福祉」という言葉がないのは意図的なのか。市民同士は支え合うが、行政は何もしないという見方もある。お互いに支え合うこと、行政も必要な支援をし、弱い立場の人でも安心できる社会をつくるということをきちんと表現すべきではないか。
9 ページ (1) のとおり、介護予防だけでなく多様な介護サービスの提供についても重点的に取り組むことを示している。未来に希望を持てる表現をとの意見、また、「市民力」を全体の基軸に据えたことにより、「支え合い」といった表現がより強調されている。

- ・ 20ページ(2) に「地域連携を担当する職員」とある。高齢者や子供の情報を把握しづらいなど、「市民力」が発揮されにくい分野があるところで、地域連携職員を配置するというのは期待が大きい。子供から高齢者まで地域のことが全て分かるような体制をつくってもらいたい。
本庁組織は縦割りなところが相当あるが、区役所は地域と直接つながっており横割りの発想が必要。地域連携職員はコーディネーターとして各部局を動かして課題を解決していくような役割としたい、具体的な機能を検討しているところである。
- ・ 介護保険制度が始まり、措置から契約へと移行した結果、区役所が地区の高齢者の把握をすることができなくなった。地域包括支援センターができて少しできるようになったが、うまく連携し、子供のこともその部署に行くと分かるように配置してもらいたい。
- ・ 「市民力」の光の部分に注目してきたが、それとは逆の、現実に根差した部分についてもきちんと市民に伝えねばならないのではないかな。
- ・ 28ページ以降の区別計画において、「市民参画」、「市民協働」、「市民主体」という記述があるが、違いはあるのか。また、各区が総合計画を受け、どのように主体的に動こうとしているかが見えないとおかしいがその辺りはどうなっているのか。
どの区も区民の皆様と一緒に地域課題を解決していこうという姿勢であり、目指しているところは同じである。表現の違いは将来ビジョン以外の記載とのバランスを反映したものであり、次回審議会では、将来ビジョン以外の部分も提示するので、改めてご意見をいただきたい。
- ・ 7ページ(1)にある「ミュージアム都市」に関して、
にある都市の個性とか競争力などデザインに関することがどのように政策に反映させるのかが見えない。誇りになるようなコンテンツで学ばないと意味がないがどうか。
質の高いコンテンツをつくっていく必要があるというのは指摘のとおり。実施計画と共に検討していく。
- ・ 23ページの「公共施設の経営改革」については、メリハリが大事。重要なものについては、市民参加型・公募型でデザイン等を取り込んでいき、重要度に疑問のあるものについてはリストを英断するといった書き方だと良い。
- ・ 17ページ(1) の「情報発信」についてもメリハリが大切。現行の情報は、量が圧倒的である。分かりやすく伝えるためには集約するのが大事で、減らすことも考えるべき。
- ・ いずれもメリハリをつけるためには、市民と共に考えることはもちろん、非常に優れた専門家と協働することが重要。
- ・ 7ページのミュージアム都市については、「学び」を強調しているが、文化を豊かにすることの方を強調して表現すべき。また、仙台のミュージアム都市が何を示すのか、もう少し明確にする必要がある。さらに、文化政策上は音楽も非常に重要だが、これも含まれることが分かるようにするべき。
- ・ 3ページの「活力の都」の記述の中に、「産学官の連携」とあるが、それ以降の記述と整合性を取るために、「民」を加えてはどうか。コミュニティビジネスやソーシャルビジネスのような市民サービス事業もイメージに入れられるだろう。
- ・ 2ページの「学びの都」のところには「学生」という言葉があるが、その他のところで

はなかなか出てこない。東北学院大では来年からボランティアセンターをつくり、恵まれない方を救済するとか商店街や地域づくりの応援などに取り組む予定である。総合計画に、学生の力の形で入っているとその運営もしやすいし、恐らく他大学で同様の取組が始まるので、その場合の連携の可能性も出てくるのではないかな。

- ・人口が減少していくなどネガティブに見えるところにこそ、解決のチャンスや産業のチャンスはある。そうしたことについても一言盛り込んでいいのではないかな。
- ・人口減少社会においては地域の年齢構成は大きなテーマである。計画的な人口配置も借家をベースとするなら可能ではないかな。全国から若い人が仙台に来ており、東北における若者のシェアは仙台が大きいはずである。行政や不動産業界、地域が連携して若者を受け止め、地域のためになってもらうようなことを考えていかねばならないのではないかな。仙台は学生が勉強するのに良いところという話がつくると魅力が増す。
- ・区別計画については、市全体の柱立ての中で各区の役割を議論することも必要だ。学びは大学だけでなく、例えば若林区なら農業から学ぶということも考えられ、幅が広がるのではないかな。

(2) その他

- ・審議会の議論をだいぶん取り込んでいるが、もう少し先駆的な仕組みに取り組んでもいいのではないかな。北九州市はいろいろなプロジェクトに取り組んでいる。